

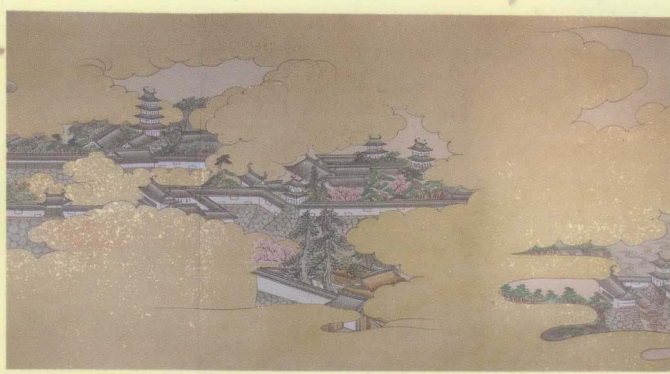
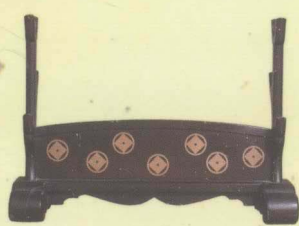
シリーズ 藩物語

大野雅之……著

府

内

藩



譜代小藩なれど、繁栄大友時代の気概と誇りを胸に、
日田豪商・廣瀬家の支援で経済・文化に華が咲く。

シリウス藩物語

大野雅之……著

府内藩

現代書館

大野雅之（おの・まさゆき）

昭和四十年（一九六五）大分県大分市生まれ。一九八八年三月、広島大学教育学部教科教育学科卒業。大分県立高等学校教諭を経て、二〇〇五年、大分県立先哲史料館主任研究員。二〇一二年、同館主幹研究員（現在）。専門は日本近世史。共著『大分県の歴史散歩』（山川出版社）のほか、最近の主な業績として「淡窓先生手書克己篇にみる廣瀬淡窓の苦悩―末弟旭莊のこと―」（『史料館研究紀要』第一五号）、「廣瀬淡窓の生家往来について」（『咸宜園教育研究センター研究紀要』第二号）、「廣瀬久兵衛―その生涯と功績―」（『日経研月報』二〇一三年七月号）などがある。

シリーズ 藩物語 府内藩

二〇一四年十一月二十五日 第一版第一刷発行

著者 大野雅之

発行者 菊地泰博

発行所 株式会社 現代書館

東京都千代田区飯田橋三二一五 郵便番号 102-0007-2 <http://www.gendaisokan.co.jp/>
電話 03-3221-1321 FAX 03-3262-1590 振替 0012013-83725

組版 デザイン・編集室 エディット

装丁 中山銀士・杉山健慈

印刷 平河工業社（本文・東光印刷所（カバー・表紙・見返し・帯）

製本 越後堂製本

編集 二又和仁

編集協力 黒澤 務

校正協力 岩田純子

©2014 Printed in Japan ISBN978-4-7684-7135-7

●定価はカバーに表示してあります。乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

●本書の一部あるいは全部を無断で利用（コピー等）することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

但し、視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用出来ない人のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「点字図書」「拡大写本」の製作を認めます。その際は事前に当社までご連絡下さい。

シリーズ藩物語

府内藩

目次

第一章 初期の府内藩

古くは国府が置かれ、大友氏の城下町として栄えたが、近世初期は藩主が定まらず。

〔1〕——古代・中世の府内……………10

府内大分の源流／大友時代の府内／大友改易と府内

〔2〕——藩主がめまぐるしく替わる初期の府内藩……………20

早川長敏の入部／城を築いた福原直高／竹中重利・重義の治世／日根野吉明の治世

第二章 大給府内藩の成立と展開

譜代大名大給松平氏による二百有余年の領国経営。

〔1〕——松平忠昭の入部……………40

入部前の大給松平家／忠昭の生い立ち／忠昭の豊後入り／忠昭の府内入部／
分知領の成立／忠昭の事績とその後の藩主

〔2〕——藩のしくみ……………59

領内の支配機構——一町三郷制／藩の職制／府内城と武家屋敷／
家臣団の構成／勤書にみる主従関係の実相

〔3〕——幕府との関係……………73

朱印改／参勤交代／江戸藩邸／幕府への勤仕／国絵図と郷帳／幕府への許可願／巡見使への対応

第三章 人々の暮らし

倭約に努め、災害にもめげず、特産品の生産に励み、祭りを楽しんだ。

〔1〕 町方の暮らし……………98

町の人口／町の年貢／町人の生活／さまざまな職業／浜の市の賑わい

〔2〕 村方の暮らし……………108

村の社会構成／農民の負担とその生活／宗門改／他領との交わり——交流と紛争

〔3〕 産業・交通の発達……………120

特産品——七島蘭／瀬戸内海航路／城下と村をつなぐ道

〔4〕 災害に立ち向かう……………129

飢饉／地震・火災／疫病

第四章 日田廣瀬家との関わり

藩政改革を担った六代久兵衛の頃から、府内藩と廣瀬家の関係は緊密さを増した。

〔1〕 藩の御用達・廣瀬家……………138

廣瀬家の出自／府内藩の御用達となる／六代当主久兵衛

〔2〕 藩政改革と廣瀬久兵衛……………143

初期の藩政改革／天保十一年の藩政改革／天保十三年の藩政改革／開墾・灌漑事業

【3】——教育・文化の興隆を導いた廣瀬家……………157

廣瀬淡窓の府内出講／廣瀬旭莊と藩主近説／廣瀬林外の府内遊学／廣瀬青邨の招聘

第五章 幕末の動乱と藩の終焉 最後の藩主近説は若年寄となり、大政奉還を迎えた。

【1】——藩政の動揺……………182

海防と軍制改革／桜田門外の変が伝わる／譜代大名としての苦悩——のぞまぬ幕政への参画

【2】——大政奉還から廃藩置県……………193

明治新政府と府内藩／明治初年の農民騒動／府内藩、そして大分県へ

エピソード 廃藩置県後の府内藩主家の足跡……………201

あとがき……………204 参考・引用文献……………206

府内藩領図……………8 府内藩の歴代藩主……………37 一町三郷制……………61

府内藩の職制……………63 格ごとの藩士数……………68 格と役職……………68

岡本家歴代当主……………69 府内藩主大給松平家が受領した領知朱印状一覧……………74

天保十年 府内藩参勤行程図……………79 府内藩江戸藩邸概要……………82

府内藩歴代藩主の幕府役職および軍役……………85 豊前・豊後に派遣された巡見使……………94

これも府内

諸国巡見使（豊前・豊後・四国）の旅程……………	95	府内藩の人口推移……………	98
城下の職種と軒（人）数……………	103	府内藩農民の階層……………	109
一町三郷別人口……………	116	宗旨別人口……………	117
忠海「浜胡屋」への廻船……………	125	豊前・豊後の近世交通図……………	128
府内藩における義倉の負担……………	130	府内藩に被害をもたらした地震……………	133
廣瀬家略系図……………	138	林外の日課……………	175
		大給松平氏略系図……………	180
瓜生島海没伝説……………	38	この人も府内人 寛佐……………	58
山弥長者伝説……………	72	この人も府内人 阿部淡斎……………	96
大給府内藩ゆかりの史蹟……………	136	府内の郷土料理……………	200

府内藩物語

府内藩は豊後国大分郡の大部分を支配した藩である。府内の名はこの地に置かれた豊後国府に由来する。鎌倉時代に入ると、大友氏が豊後国守護としてここを支配した。二十一代当主の宗麟はキリスト教を保護し、海外貿易を奨励したため、南蛮文化が花開き、府内の名は世界に知られるようになる。

文禄二年（一五九三）、朝鮮での失策を理由に、宗麟の子義統（吉統）は改易され、豊後国は豊臣秀吉の蔵入地となる。太閤検地により豊臣方の武將らが封じられ、江戸時代の豊後を特徴づける「小藩分立」体制の素地が出来上がった。

まず早川長敏が大分郡に領地および蔵入地の預かり地を得て入部し、府内藩が成立。ところがその後、藩主はめまぐるしく交替する。

慶長二年（一五九七）、福岡直高が大分・速見・玖珠郡内の領地を得て臼杵から入部。直高は築城を開始し、荷揚城と命名したが、城の完成を見ずして改易され、再び早川長敏が入部する。その長敏も関ヶ原の戦いで西軍に与したため改易される。

藩という公国

江戸時代、日本には千に近い独立公国があった

江戸時代。徳川將軍家の下に、全国に三百諸侯の大名があった。ほかに寺領や社領、知行所をもつ旗本領などを加えると数え切れないほどの独立公国があった。そのうち諸侯を何々家家中と称していた。家中は主君を中心に家臣が忠誠を誓い、強い連帯感で結びついていた。家臣の下には足輕層があり、全体の軍事力の維持と領民の統制をしていたのである。その家中を藩と後世の史家は呼んだ。

江戸時代に何々藩と公称することはまれで、明治以降の使用が多い。それは近代からみた江戸時代の大名の領域や支配機構を総称する歴史用語として使われた。その独立公国たる藩にはそれぞれ個性的な藩風と自立した政治・経済・文化があった。幕藩体制とは歴史学者伊東多三郎氏の視点だが、まさに將軍家の諸侯の統制と各藩の地方分権が巧み組み合わされていた、連邦でもない奇妙な封建的国家体制であった。

今日に生き続ける藩意識

明治維新から百四十年以上経っているのに、今

慶長六年、府内に入部した竹中重利は城の修築や城下町の建設、

領内の検地を行う。重利を継いだ重義は長崎奉行となるが、在職中の不正を理由に幕府から切腹を命じられる。

寛永十一年（一六三四）、下野国（現・栃木県）壬生城から日根野吉明^{よしもと}が入部。吉明は初瀬井路の開削など積極的な領国経営を行ったが、嗣子がなかったため同家は断絶する。

そして万治元年（一六五八）、高松（現・大分市）にいた大給松平忠昭が大分郡のうち二万二千二百石を得て藩主となる。以後、廃藩置県までの十代二百有余年間にわたり、大給松平氏が府内藩を領有する。譜代大名であったので、幕政に関与する藩主もいた。ちなみに最後の藩主近説^{ちかよし}は、大政奉還のとき若年寄であった。

江戸後期、家老の岡本主米^{しゅめ}と日田豆田町の豪商廣瀬久兵衛による藩政改革が実施された。改革は財政にとどまらず、学問・文化の振興にまで及んだ。久兵衛は、儒学者である兄淡窓や弟旭^{きよく}荘を招き、藩校の刷新や藩主・藩士の教育に力を入れ、改革を成功させた。

地元には藩庁日記をはじめ、藩主・家老家に伝来した古文書が多数残っている。これらに加え、久兵衛日記などの日田廣瀬家史料も参考にしながら、府内藩の物語を描いていきたい。

でも日本人に藩意識があるのはなぜだろうか。明治四年（一八七二）七月、明治新政府は廃藩置県^{はてはなほけ}を断行した。県を置いて、支配機構を変革し、今までの藩意識を改めようとしたのである。ところが、今でも、「あの人は薩摩藩の出身だ」とか、「我らは会津藩の出身だ」と言う。それは侍出身だけでなく、藩領出身も指しており、藩意識が県民意識をうまわっているところさえある。むしろ、今でも藩對抗の意識が地方の歴史文化を動かしている。そう考えると、江戸時代に育まれた藩民意識が現代人にどのような影響を与え続けているのかを考える必要があるだろう。それは地方に住む人々の運命共同体としての藩の理性が今でも生きている証拠ではないかと思う。

藩の理性は、藩風とか、藩是^{はんぜ}とか、ひいては藩主の家風ともいふべき家訓などで表されていた。

〔稲川明雄（本シリーズ「長岡藩」筆者）
諸侯▼江戸時代の大名。〕

知行所▼江戸時代の旗本が知行として与えられた土地。
足輕層▼足輕・中間・小者など。

伊東多三郎▼近世藩政史研究家。東京大学史料編纂所所長を務めた。

廃藩置県▼藩体制を解体する明治政府の政治改革。廃藩により全国は三府三〇二県となった。同年末には統廃合により三府七二県となった。

シリーズ藩物語

府

内

藩

目次

第一章 初期の府内藩

古くは国府が置かれ、大友氏の城下町として栄えたが、近世初期は藩主が定まらず。

〔1〕 古代・中世の府内……………10

府内大分の源流／大友時代の府内／大友改易と府内

〔2〕 藩主がめまぐるしく替わる初期の府内藩……………20

早川長敏の入部／城を築いた福原直高／竹中重利・重義の治世／日根野吉明の治世

第二章 大給府内藩の成立と展開

譜代大名大給松平氏による二百有余年の領国経営。

〔1〕 松平忠昭の入部……………40

入部前の大給松平家／忠昭の生い立ち／忠昭の豊後入り／忠昭の府内入部／
分知領の成立／忠昭の事績とその後の藩主

〔2〕 藩のしくみ……………59

領内の支配機構——一町三郷制／藩の職制／府内城と武家屋敷／
家臣団の構成／勤書にみる主従関係の実相

〔3〕 幕府との関係……………73

朱印改／参勤交代／江戸藩邸／幕府への勤仕／国絵図と郷帳／幕府への許可願／巡見使への対応

第三章 人々の暮らし

倭約に努め、災害にもめげず、特産品の生産に励み、祭りを楽しんだ。

〔1〕 町方の暮らし……………98

町の人口／町の年貢／町人の生活／さまざまな職業／浜の市の賑わい

〔2〕 村方の暮らし……………108

村の社会構成／農民の負担とその生活／宗門改／他領との交わり——交流と紛争

〔3〕 産業・交通の発達……………120

特産品——七島蘭／瀬戸内海航路／城下と村をつなぐ道

〔4〕 災害に立ち向かう……………129

飢饉／地震・火災／疫病

第四章 日田廣瀬家との関わり

藩政改革を担った六代久兵衛の頃から、府内藩と廣瀬家の関係は緊密さを増した。

〔1〕 藩の御用達・廣瀬家……………138

廣瀬家の出自／府内藩の御用達となる／六代当主久兵衛

〔2〕 藩政改革と廣瀬久兵衛……………143

初期の藩政改革／天保十一年の藩政改革／天保十三年の藩政改革／開墾・灌漑事業

【3】——教育・文化の興隆を導いた廣瀬家……………157

廣瀬淡窓の府内出講／廣瀬旭莊と藩主近説／廣瀬林外の府内遊学／廣瀬青邨の招聘

第五章 幕末の動乱と藩の終焉 最後の藩主近説は若年寄となり、大政奉還を迎えた。

【1】——藩政の動揺……………182
海防と軍制改革／桜田門外の変が伝わる／譜代大名としての苦悩——のぞまぬ幕政への参画

【2】——大政奉還から廃藩置県……………193

明治新政府と府内藩／明治初年の農民騒動／府内藩、そして大分県へ

エピソード 廃藩置県後の府内藩主家の足跡……………201

あとがき……………204
参考・引用文献……………206

府内藩領図……………8 府内藩の歴代藩主……………37 一町三郷制……………61

府内藩の職制……………63 格ごとの藩士数……………68 格と役職……………68

岡本家歴代当主……………69 府内藩主大給松平家が受領した領知朱印状一覧……………74

天保十年 府内藩参勤行程図……………79 府内藩江戸藩邸概要……………82

府内藩歴代藩主の幕府役職および軍役……………85 豊前・豊後に派遣された巡見使……………94

これも府内

諸国巡見使（豊前・豊後・四国）の旅程……………	95	府内藩の人口推移……………	98
城下の職種と軒（人）数……………	103	府内藩農民の階層……………	109
一町三郷別人口……………	116	宗旨別人口……………	117
忠海「浜胡屋」への廻船……………	125	豊前・豊後の近世交通図……………	128
府内藩における義倉の負担……………	130	府内藩に被害をもたらした地震……………	133
廣瀬家略系図……………	138	林外の日課……………	175
		大給松平氏略系図……………	180
瓜生島海没伝説……………	38	この人も府内人 寛佐……………	58
山弥長者伝説……………	72	この人も府内人 阿部淡斎……………	96
大給府内藩ゆかりの史蹟……………	136	府内の郷土料理……………	200



大分市街地



府内城からの景観

第一章

初期の府内藩

古くは国府が置かれ、大友氏の城下町として栄えたが、近世初期は藩主が定まらず。

